

塩竈市立病院事業会計

I 予算の執行状況

1 収益的収入及び支出

1) 収入

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第24条第3項の規定による支出額に係る財源充当額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	執 行 率
病院事業収益	2,953,922,000	0	2,902,942,525	△ 50,979,475	98.27
医 業 収 益	2,547,080,000	0	2,484,807,610	△ 62,272,390	97.55
医 業 外 収 益	405,842,000	0	418,123,435	12,281,435	103.02
特 別 利 益	1,000,000	0	11,480	△ 988,520	1.14

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支出

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	決 算 額	翌 年 越 度 額	不 用 額	執 行 率
病院事業費用	2,924,403,000	2,846,557,263	0	77,845,737	97.33
医 業 費 用	2,877,837,000	2,800,338,185	0	77,498,815	97.30
医 業 外 費 用	43,869,000	43,526,411	0	342,589	99.21
特 別 損 失	2,697,000	2,692,667	0	4,333	99.83

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

① 収益的収入

予算現額2,953,922,000円に対し、決算額2,902,942,525円で、執行率98.27%となっている。

② 収益的支出

予算現額2,924,403,000円に対し、決算額2,846,557,263円で、執行率97.33%となり、77,845,737円の不用額が生じ決算されている。

- [主な不用額]
- ・給 与 費 64,160 千円 (手当等 21,958 千円、給料 20,472 千円)
 - ・経 費 5,600 千円 (賃借料 3,603 千円、光熱水費 1,339 千円)
 - ・減価償却費 4,177 千円 (器械備品 4,175 千円)
 - ・材 料 費 3,148 千円 (薬品費 2,810 千円)

2 資本的収入及び支出

1) 収入

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の繰越額 に係る財源充当額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	執 行 率
資本的収入	161,731,000	98,600,000	160,231,000	△ 1,500,000	99.07
他会計補助金	36,531,000	0	36,531,000	0	100.00
企 業 債	125,200,000	98,600,000	123,200,000	△2,000,000	98.40
県 補 助 金	0	0	500,000	500,000	-

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支出

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の規定 による繰越額	決 算 額	翌 年 度 繰 越 額	不 用 額	執 行 率
資本的支出	206,064,000	98,600,000	203,885,668	0	2,178,332	98.94
建設改良費	133,936,000	98,600,000	131,758,051	0	2,177,949	98.37
企業債償還金	65,628,000	0	65,627,617	0	383	99.99
長期借入金 償 還 金	6,500,000	0	6,500,000	0	0	100.00

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

① 資本的収入

予算現額 161,731,000 円に対し、決算額 160,231,000 円で、執行率 99.07%となっている。

② 資本的支出

予算現額 206,064,000 円に対し、決算額 203,885,668 円で、執行率 98.94%となっている。

建設改良費は、施設購入費として 20,560,246 円、施設改良費として 106,461,840 円、リース資産購入費として 4,735,965 円である。施設購入費の内訳は全自動錠剤分包機購入(契約額 6,971,400 円)、大腸スコープ購入(契約額 4,417,200 円)等、施設改良費の内訳はエレベーター改修・新設工事(過年度繰越分 98,595,120 円)等である。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 43,654,668 円は、当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額 9,405,038 円、当年度損益勘定留保資金 34,249,630 円をもって補てんしている。

II 経営成績

平成 25 年度から平成 29 年度までの経営成績は、次表のとおりである。

消費税を除いた本年度の収益的収支は、57,301,763 円の純利益となって決算されている。

なお、以下の計数については、消費税を除いたものである。

1 総収益と総費用

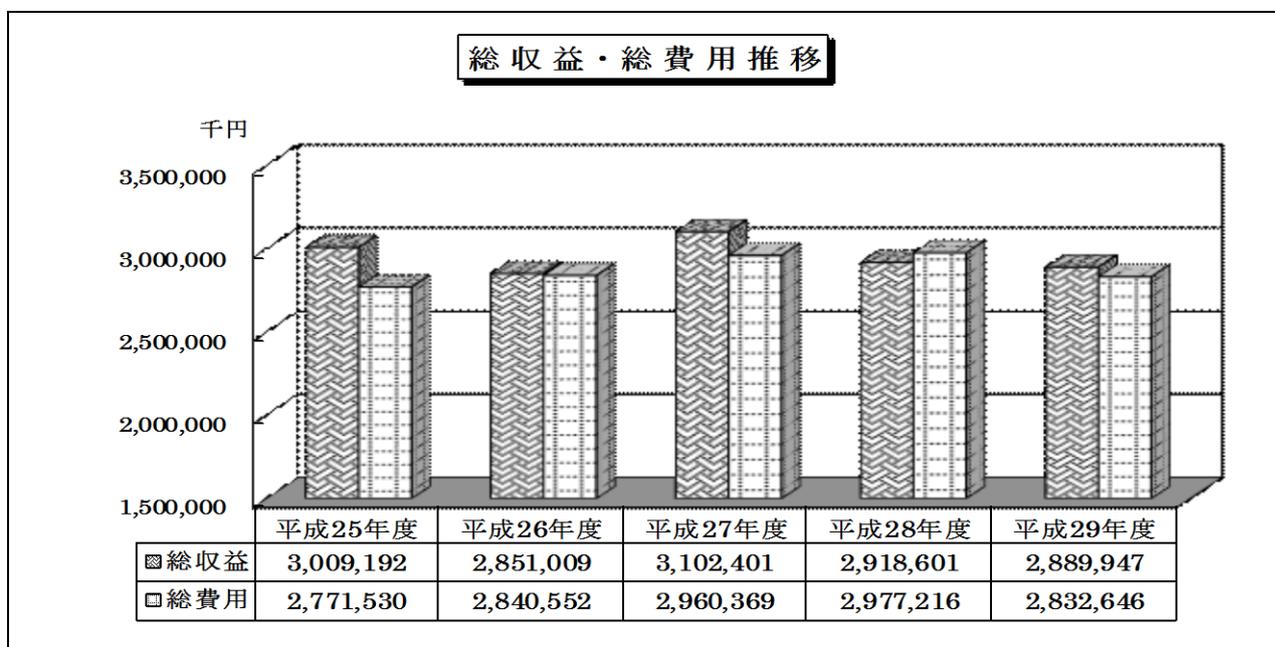
総収益・総費用すう勢比率表

(単位:円、%)

区分 年度	総 収 益		総 費 用		収支差引額 (A) - (B)	収支比率 (A) / (B)
	金 額 (A)	すう勢比率	金 額 (B)	すう勢比率		
平成25年度	3,009,192,447	100.0	2,771,529,913	100.0	237,662,534	108.6
平成26年度	2,851,008,731	94.7	2,840,552,129	102.5	10,456,602	100.4
平成27年度	3,102,400,936	103.1	2,960,368,766	106.8	142,032,170	104.8
平成28年度	2,918,601,332	97.0	2,977,216,072	107.4	△ 58,614,740	98.0
平成29年度	2,889,947,432	96.0	2,832,645,669	102.2	57,301,763	102.0

(注) すう勢比率は 25 年度を基準年度とする。

また、平成 25 年度以降の総収益、総費用の推移を図で表すと以下のとおりである。



本年度の総収支の状況は、平成 25 年度を比率 100 としたすう勢比率で見ると、総収益で前年度と比べ 1.0 ポイント下回った 96.0%となり、総費用は 5.2 ポイント下回った 102.2%となっている。

また、収支比率は前年度に比べ 4.0 ポイント上回った 102.0%となり、収支差引では前年度より 115,916,503 円増の 57,301,763 円の純利益となった。

2 収 益

次に収益の内容を前年度と比較してみると次表のとおりである。

収 益 比 較 表

(単位:円、%)

年 度 区 分		平 成 29 年 度		平 成 28 年 度		対 前 年 度 比 較	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	増 減 額	増 減 率
医 業 収 益	入 院 収 益	1,495,512,471	51.7	1,508,673,441	51.7	△13,160,970	△0.9
	外 来 収 益	670,595,244	23.2	732,600,364	25.1	△62,005,120	△8.5
	そ の 他 医 業 収 益	307,075,878	10.6	315,100,746	10.8	△8,024,868	△2.5
	計	2,473,183,593	85.6	2,556,374,551	87.6	△83,190,958	△3.3
医 業 外 収 益	他 会 計 負 担 金	253,277,000	8.8	195,484,000	6.7	57,793,000	29.6
	他 会 計 補 助 金	92,417,000	3.2	105,496,000	3.6	△13,079,000	△12.4
	患 者 外 給 食 収 益	847,539	0.0	707,990	0.0	139,549	19.7
	そ の 他 医 業 外 収 益	16,614,535	0.6	16,424,189	0.6	190,346	1.2
	県 補 助 金	435,000	0.0	231,000	0.0	204,000	88.3
	長 期 前 受 金 戻 入	53,162,135	1.8	43,883,602	1.5	9,278,533	21.1
	計	416,753,209	14.4	362,226,781	12.4	54,526,428	15.1
特 別 利 益	過 年 度 損 益 修 正 益	10,630	0.0	0	-	10,630	皆増
	他 会 計 補 助 金	0	-	0	-	0	-
	計	10,630	0.0	0	-	10,630	皆増
合 計		2,889,947,432	100.0	2,918,601,332	100.0	△28,653,900	△1.0

収益の内容を前年度と比較してみると、収益合計で28,653,900円(1.0%)の減収となっている。

これは、医業外収益の他会計負担金57,793,000円(29.6%)等で増収となったが、医業収益の外来収益62,005,120円(8.5%)等が減収となったためである。

入院及び外来患者の年延患者数の推移をみると次表のとおりである。

年 延 患 者 数 の 推 移

(単位:人、%)

区 分	平成29年度	平成28年度	対前年度比率	平成27年度	平成26年度	平成25年度
年延入院患者数	50,170	50,593	99.2	51,005	50,687	57,727
年延外来患者数	57,632	57,280	100.6	60,121	62,037	66,164
合 計	107,802	107,873	99.9	111,126	112,724	123,891

本年度の年延入院患者数は50,170人、一日平均137.5人で、前年度より延患者数423人、一日平均1.1人の減少。年延外来患者数は57,632人、一日平均236.2人で前年度より延患者数352人、一日平均0.5人の増加となっている。

次に患者一人一日当りの診療収入など本市と年鑑指標をみると次表のとおりである。

区 分	平成29年度	平成28年度	対前年度比較増減	平成28年度年鑑指標
患者一人一日当り診療収入 (円)	20,093	20,777	△ 684	23,859
” 入院収入 (円)	29,809	29,820	△ 11	44,608
” 外来収入 (円)	11,636	12,790	△ 1,154	12,086
外 来 入 院 患 者 比 率 (%)	114.9	113.2	1.7	176.2
病 床 利 用 率 (%)	85.4	86.1	△0.7	74.8

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の平成28年度全国平均値である。

本年度の患者一人一日当りの入院と外来の診療収入を前年度と比較すると、入院収入は29,809円で11円(0.04%)、外来収入でも11,636円で1,154円(9.0%)下回っている。また、年鑑指標と比較すると、入院収入で14,799円(33.2%)、外来収入でも450円(3.7%)下回っている。

外来入院患者比率(年延外来患者数÷年延入院患者数)をみると、前年度に比べ1.7ポイント上回っている。これは入院患者の減少によるものである。(審査資料別表2参照)

3 費用

費用比較表

(単位:円、%)

区分 \ 年度	平成29年度		平成28年度		対前年度比較	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
医業費用	2,757,114,943	97.3	2,887,258,115	97.0	△130,143,172	△4.5
医業外費用	72,839,171	2.6	83,700,024	2.8	△10,860,853	△13.0
特別損失	2,691,555	0.1	6,257,933	0.2	△3,566,378	△57.0
合計	2,832,645,669	100.0	2,977,216,072	100.0	△144,570,403	△4.9

費用を前年度と比較してみると、医業費用で 130,143,172 円 (4.5%)、医業外費用で 10,860,853 円 (13.0%)、特別損失で 3,566,378 円 (57.0%)、それぞれ減少したことにより、費用合計で 144,570,403 円 (4.9%) 減少している。また、医業費用の減少については、薬品費や賞与引当金繰入額の減少によるものである。(審査資料別表 3・4 参照)

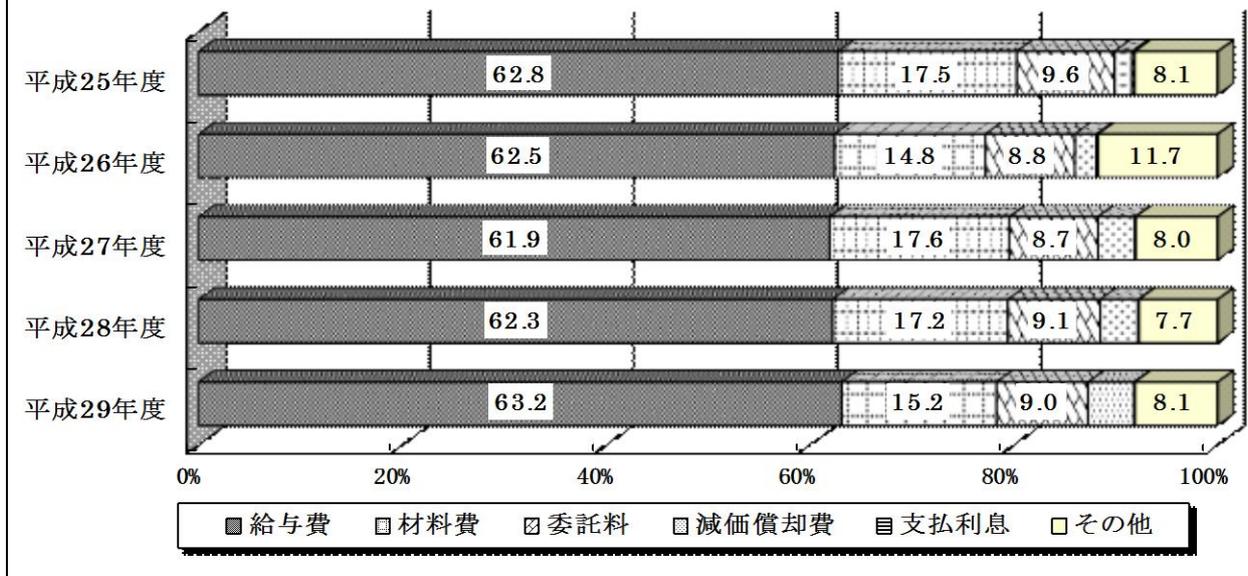
これを構成別で比較してみると次表のとおりである。

費用構成別比較表

(単位:円、%)

区分 \ 年度	平成29年度		平成28年度		対前年度比較		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
給与費	1,789,773,750	63.2	1,853,951,819	62.3	△64,178,069	△3.5	
材料費	429,434,430	15.2	513,153,759	17.2	△83,719,329	△16.3	
委託料	255,800,918	9.0	270,401,602	9.1	△14,600,684	△5.4	
減価償却費	126,388,184	4.5	108,674,580	3.7	17,713,604	16.3	
支払利息	1,509,196	0.1	1,621,914	0.1	△112,718	△6.9	
その他	賃借料	32,066,870	1.1	36,065,575	1.2	△3,998,705	△11.1
	光熱水費	50,908,611	1.8	49,793,583	1.7	1,115,028	2.2
	修繕費・ 工事費	25,380,149	0.9	10,625,809	0.4	14,754,340	138.9
	その他	121,383,561	4.3	132,927,431	4.5	△11,543,870	△8.7
	計	229,739,191	8.1	229,412,398	7.7	326,793	0.1
合計	2,832,645,669	100.0	2,977,216,072	100.0	△144,570,403	△4.9	

費用構成別比較表



構成別で前年度より増加した主なものは、減価償却費で 17,713,604 円(16.3%)、修繕費・工事費で 14,754,340 円(138.9%)等である。一方、減少した主なものは、材料費で 83,719,329 円(16.3%)、給与費で 64,178,069 円(3.5%)等である。

4 経営状況

病院事業の経済性を示す一つの指標として、総資本利益率を求めれば次表のとおりである。

区分	平成29年度	平成28年度	平成28年度 年鑑指標	算式
総資本利益率 (%)	3.20	△2.73	0.52	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{年平均総資本}} \times 100$
総資本回転率 (回)	1.32	1.33	0.56	$\frac{\text{医業収益}}{\text{年平均総資本}}$
医業収益利益率 (%)	2.43	△2.05	0.91	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{医業収益}} \times 100$

(注) ・総資本＝負債資本合計

・年平均総資本＝(期首総資本＋期末総資本)÷2

・総資本利益率(経營業績、収益性を示し、比率の高いほど投下資本が効率的に運用されていることを表す)

・総資本回転率(高いほど収益をあげるため総資本を効率的に活用したことを表す)

・医業収益利益率(医業収益に占める経常利益の割合を示す)

総資本利益率は、前年度より 5.93 ポイント上回っている。これを総資本回転率と医業収益利益率とに分解してみると、総資本回転率で 0.01 ポイント下回ったが、医業収益利益率で 4.48 ポイント上回ったことに起因している。これは当年度経常利益が 112,339,495 円(214.6%)増加したことによるものである。

次に経営状態の良否を判断するため、収支比率を求めれば次表のとおりである。

区 分	平成29年度	平成28年度	平成28年度 年鑑指標	算 式
医業収支比率 (%)	89.70	88.54	91.49	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$
経常収支比率 (%)	102.12	98.24	97.70	$\frac{\text{医業収益} + \text{医業外収益}}{\text{医業費用} + \text{医業外費用}} \times 100$
総収支比率 (%)	102.02	98.03	97.59	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の平成28年度全国平均値である。

比率はいずれも高いほど経営状態は良好であることを表す。

総収支比率(総体的経営活動の能率を示す)では、年鑑指標と比較しても、4.43ポイント上回っている。これは、医業収支比率(業務活動の能率を示す)で1.79ポイント下回っているが、経常収支比率(経常経営活動の能率を示す)で4.42ポイント上回っていることによるものである。

Ⅲ 財 政 状 態

平成29年度末の財政状態は、審査資料別表5に示すとおりである。

また、資金の変動状況を活動区分別に表示するキャッシュ・フロー計算書は次表のとおりである。

キャッシュ・フロー計算書比較表

(単位:円)

区 分	平成29年度	平成28年度	対前年度比較増減
1 業務活動によるキャッシュ・フロー	△64,411,854	183,958,686	△248,370,540
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	△117,617,048	△174,302,982	56,685,934
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	173,367,418	△3,335,838	176,703,256
資金増加額(1+2+3)	△8,661,484	6,319,866	△14,981,350
資金期首残高	21,027,163	14,707,297	6,319,866
資金期末残高	12,365,679	21,027,163	△8,661,484

(注) 審査資料別表6参照

本年度の資金期末残高は、前年度末より8,661,484円減少し12,365,679円となっている。

その内容を区分ごとに見てみると、業務活動によるキャッシュは、未払金が減少したことなどにより、前年度より248,370,540円減少し△64,411,854円となっている。

投資活動によるキャッシュは、前年度より56,685,934円増加し△117,617,048円となっている。これは、有形固定資産の取得による支出によるものである。

財務活動によるキャッシュは、一時借入による収入の増加や償還額の減少などにより、前年度より176,703,256円増加し173,367,418円となっている。

なお、年度末現在の不良債務額の推移は、次のとおりである。

(単位:円)

	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成26年度 (期首)
年度末不良債務額	△512,561	95,725,056	65,146,538	265,115,766	199,035,038
対前年度増減額	△96,237,617	30,578,518	△199,969,228	66,080,728	112,176,739
不良債務比率(%)	-	3.74	2.60	11.33	7.95

※不良債務比率(%)= $\frac{\text{不良債務額}}{\text{医業収益}} \times 100$

次に、財政状態の良否を示す一つの指標として、財務比率を求めれば次表のとおりである。

財 務 比 率

(単位:%)

区 分	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度 年鑑指標	算 式
流 動 比 率	80.71	72.62	79.93	188.31	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
自 己 資 本 構 成 比 率	46.10	43.57	45.44	30.48	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率	107.97	113.23	111.88	86.41	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$

(注) ・流動比率(短期支払能力を示す) ・自己資本構成比率(経営の安全性を示す)
・固定資産対長期資本比率(固定資産の調達状態を示す)

平成29年度の決算を前年度と比較すると、流動比率で8.09ポイント、自己資本構成比率で2.53ポイント、固定資産対長期資本比率で5.26ポイントそれぞれ改善している。

IV 病院改革プラン数値目標との比較

塩竈市立病院改革プランの計画期間が平成 27 年度で終了し、新たに策定された「塩竈市立病院新改革プラン」の計画期間は平成 28 年度から平成 32 年度までの 5 年間である。

財務に係る数値を中心にした平成 26 年度からの決算数値の推移と数値目標との比較は、次表に示すとおりである。

区 分		年 度				
		29年度	28年度	27年度	26年度	
経常収支比率	(%)	決算数値	102.1	98.2	96.1	93.3
		数値目標	101.1	101.0	102.9	102.9
		差 額	1.0	△ 2.8	△ 6.8	△ 9.6
医業収支比率	(%)	決算数値	89.7	88.5	87.0	87.2
		数値目標	93.3	94.0	95.7	95.6
		差 額	△ 3.6	△ 5.5	△ 8.7	△ 8.4
職員給与費対 医業収益比率	(%)	決算数値	53.3	55.0	54.0	59.4
		数値目標	51.6	52.7	55.8	55.7
		差 額	1.7	2.3	△ 1.8	3.7
病床利用率	(%)	決算数値	85.4	86.1	86.6	86.3
		数値目標	93.9	93.9	97.3	97.3
		差 額	△ 8.5	△ 7.8	△ 10.7	△ 11.0
1日平均入院患者数	(人)	決算数値	137.5	138.6	139.4	138.9
		数値目標	151.3	151.3	156.7	156.7
		差 額	△ 13.8	△ 12.7	△ 17.3	△ 17.8
1日平均外来患者数	(人)	決算数値	236.2	235.7	247.4	254.3
		数値目標	276.3	276.3	307.8	307.8
		差 額	△ 40.1	△ 40.6	△ 60.4	△ 53.5
入院患者1人1日当り 診療単価	(円)	決算数値	29,809	29,820	29,663	28,595
		数値目標	29,105	29,105	27,500	27,500
		差 額	704	715	2,163	1,095
外来患者1人1日当り 診療単価	(円)	決算数値	11,636	12,790	12,564	10,422
		数値目標	10,800	10,800	9,150	9,150
		差 額	836	1,990	3,414	1,272
救急患者数	(件)	決算数値	878	828	1,044	1,112
		数値目標	1,000	1,000	1,000	1,000
		差 額	△ 122	△ 172	44	112
経常損益	(千円)	決算数値	59,983	△ 52,357	△ 116,174	△ 185,432
		数値目標	30,720	28,208	77,051	74,919
		差 額	29,263	△ 80,565	△ 193,225	△ 260,351
純利益	(千円)	決算数値	57,302	△ 58,615	142,032	10,457
		数値目標	30,720	28,208	340,545	335,433
		差 額	26,582	△ 86,823	△ 198,513	△ 324,976
一般会計からの繰入金	(千円)	決算数値	544,000	499,273	698,393	637,714
		数値目標	427,038	426,020	600,712	647,934
		差 額	116,962	73,253	97,681	△ 10,220
不良債務比率	(%)	決算数値	-	3.7	2.6	11.3
		数値目標	-	-	△ 21.3	△ 14.3
		差 額	-	3.7	23.9	25.6

塩竈市立病院新改革プランの数値目標を決算数値と比較すると、経常収支比率、入院患者及び外来患者 1 人 1 日当り診療単価、経常損益、純利益及び不良債務比率は目標値を達成したが、その他は目標値を下回っている。

V む す び

市立病院事業会計決算の概要は以上のとおりである。

本年度の患者数を前年度と比較すると、入院患者数は423人(0.8%)減の50,170人、外来患者数は352人(0.6%)増の57,632人となった。また、病床利用率は前年度の86.1%から0.7ポイント減の85.4%となっている。

収益的収支を前年度と比較すると、総収入で28,653,900円(1.0%)減の2,889,947,432円、総支出では144,570,403円(4.9%)減の2,832,645,669円で収支差引57,301,763円の純利益で決算され、前年度より純利益で115,916,503円増となっている。

総収入の減の内訳は、医業外収益の他会計負担金57,793,000円(29.6%)などで増となったが、医業収益の入院収益13,160,970円(0.9%)や外来収益で62,005,120円(8.5%)、医業外収益の他会計補助金13,079,000円(12.4%)などが減になったことによるものである。

総支出の減の内訳は、医業費用の修繕費14,258,140円(150.4%)や減価償却費17,713,604円(16.3%)などで増となったが、医業費用の給与費で64,178,069円(3.5%)、材料費83,719,329円(16.3%)、医業外費用の雑損失で11,001,318円(13.6%)などが減になったことによるものである。

資本的収支を前年度と比較すると、総収入では60,162,280円(27.3%)減の160,231,000円、総支出では69,776,354円(25.5%)減の203,885,668円となっており、収支差引の不足額43,654,668円は当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、当年度損益勘定留保資金で補てんし決算されている。総収入減の主な内訳は、企業債によるものであり、総支出減の主な内訳は、建設改良費などによるものである。

本年度は、医業費用で給与費や材料費が減になったものの入院収益や外来収益の医業収益も減となったことで収支差が生じ、それを補うため一般会計からの繰入れを増額し黒字決算となっている。

また、本年度は、市立病院新改革プラン計画期間の平成28年度から32年度までの2年目になっている。その改革プランの数値目標について、経常収支比率や経常損益、純利益などは目標を達成している。しかし、病床利用率や1日平均入院患者数及び外来患者数などは目標値を下回っており、さらに厳しい状況となっていることから、3年目以降の目標達成に向けた努力を期待したい。